

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年9月19日

氏名 (フリガナ)	山田 麻綾 (ヤマダ マアヤ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	東京慈恵会医科大学
学年	5年

非常に充実した6日間の研修プログラムに参加させていただけたことに、大変感激しております。
日米医学医療交流財団の皆様、医学部夏期集中医学英語研修プログラムに関わる方々に感謝申し上げます。

私は2つの理由から、本研修プログラムへの参加を希望致しました。

1つ目の理由は、研修プログラムを通して医学英語の能力を高めたいと考えたためです。私は6年次に短期臨床留学を予定しているため、実臨床の場で必要とされる医学英語を身に着ける必要があると考えています。しかし、臨床の場で求められる **history taking** や **presentation** の能力を身に着けることは、個人の勉強では限界があると感じていました。本研修プログラムの最大の魅力は、米国の臨床現場でご活躍されている先生方、そして Hawaii 大学の医学生から、1対1で直接 **feedback** を貰えるという点だと思います。模擬患者を担当してくださった Hawaii 大学の医学生の方とのコミュニケーションを通して、与えられた症例のどのような点に疑問を持ち **history taking** を進めていくべきかを学び、その後、先生方の前で **presentation** 発表をすることで、問診により集めた情報を簡潔かつ論理的にまとめるための手順を学ぶことができました。事前の知識が不十分であった場合でも理解できるように、はじめから丁寧に説明してくださった点にも感激致しました。

研修への参加を志願した2つ目の理由は、アメリカの医療システム、医学教育を実際に見て学びたいと考えたためです。私は、将来患者さんと関わる際に、医学的側面からだけでなく精神的、社会的、経済的など様々な側面から患者さんを支えることのできる医師になりたいと思っており、そのためには、医療現場だけでなく医療システムや医学教育についても学生の間から学ぶ必要があると考えています。本研修プログラムには、**John A. Burns School of Medicine(University of Hawaii Medical School)**を見学してアメリカの医学教育について、**St. Luke's Clinic** や **Kuakini Hospital** といった現地の病院見学を通してアメリカの医療システムの特徴について学ぶことのできるプログラムも含まれています。これらの見学を通して、日本とアメリカの共通点と相違点を実際に体感したという経験は、医師としての今後の活動に必ず役立つと思っています。

最後となりましたが、研修中に様々な面からサポートしてくださった先生方、東海大学および Hawaii Tokai International College の方々、そして日米医学医療交流財団の皆様に改めて御礼申し上げます。本研修プログラムを通して学んだことは、将来の日本の医療に必ず致します。6日間ありがとうございました。

